

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 勝山市立村岡小学校

種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫教育  
 中学校     中高一貫教育     高等学校  
 教員養成     技術/職業教育  
 特別支援学校     その他（                      ）

所在地 〒911-0035  
福井県勝山市郡町2丁目9-1

E-mail murokosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website <http://www.city.katsuyama.fukui.jp/school/e-muroko/murokohp/H27muroko/indexH27.html>

児童生徒数 男子 102名    女子 112名    合計 214名  
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（                      ）



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



UNESCO  
Associated  
Schools

### 3. 活動内容

- (1) 1学年の実践「たのしもう むろこのはる・た  
学校の周りに出かけ、様々な動植物と触れい  
作物、動物を育て、生き物との関わりを大切にしてきた。また地域の一員  
として、幼稚園の子やお年寄りの方とのふれあい交流も行った。

① 学校の周りで、生き物と触れ合う。

豊かな自然に囲まれている学校という特色を生かし、外へ出かけ、様々な生き物と触れ合った。生き物との触れ合いを通じ、それぞれの季節を感じることができた。文化祭では、見つけた生き物についての劇を発表し、生き物の特徴や感じたこと、分かったことを伝えた。



② 自分たちで命を育てる。

植物や作物を育てたり、2年生から引き継いだモルモットを飼育したりした。育てるという体験を通じて、命の大切さやお世話の仕方について学んだ。



③ 地域の方と交流する。

地域のお年寄りの方から、昔から伝わる日本の遊びを教えてもらったり、幼稚園児と一緒に遊んだりして、地域の方との交流を深めた。

- (2) 2学年の実践「もっと知りたいな もっとなかよくなりたいな

～村岡のまち・人・自然～

春と秋に地域の町探検や行事に参加し、自分の住む町について新しく発見し、よさについて気付くことができた。たくさんの町の人やボランティアの方にもお世話になり、自分たちの生活がたくさんの人に支えられていることが実感できた。

① 町探検に出かけよう（春・秋）

自分たちのすんでいる地区を中心に、知っているところ、さらに知りたいところを話し合い、行き先を決め、公共施設、お店、公園などに出かけた。発見したことや感じたことを学級で交流し、改めて自分たちの住んでいる町に愛着を感じたようだった。



② 恐竜博物館に行こう

町探検の訪問先の一つに子どもたちが一番有名だと挙げた恐竜博物館に出かけた。見学後は、恐竜について調べたり、恐竜研究会の方に話を聞いたりする機会を設け、恐竜についての知識を深めた。新しく知ったことを町民文化祭で町の人に伝えることができた。

③ 地域の人となかよくしよう

町探検や地域での手話の発表など、たくさんの方と関わる機会があった。直接いろいろな話をして教えて頂いたり、お礼の手紙を書いたりするなど、温かい気持ちを感じることができた。



(3) 3学年の実践「村岡たんけん隊」

本校裏手にある村岡山の歴史や生き物について調べた。調べたことは、町の文化祭でクイズや紙芝居にして発表した。

① 村岡山に登り、学習課題を見つける。

村岡山で見つけてきたものから、虫、自然（虫以外）歴史、赤とんぼロード、お地蔵様の5つのグループに分かれて調べた。

② 課題について調べる。

市内の歴史探遊館「まほろば」へ出かけ、学芸員の方から村岡山と平泉寺の関わりについて学んだ。

③ 地域に発信する。

村岡町の文化祭のステージ発表で、村岡山での発見を伝えた。また、調べたことを新聞や紙芝居にまとめたものを掲示した。

④ 地域の方たちと活動する。

学校付近で赤トンボがよく見られる場所を「赤トンボロード」と名付け、地域の方々と看板を設置した。



(4) 4年生の実践

「みんなの村岡町だいすき村岡町」

福祉に関する学習を行い、分かったことを町の文化祭で劇やクイズ形式等で発表した。

① 視覚障害について

視覚障害の方（村岡町在住）の話を聞き、自分で料理をしたり外出したり洋服を選んだり私たちと変わらない生活を送っていることを知った。

② 認知症について

だれでも認知症になる可能性があることを知りお年寄りの方に優しく接していこうという考えをもった児童が多くいた。

③ 車いすについて

学校内を車いすで移動し、トイレや玄関の狭い所や段差など、うまく通行できない場所があることを確認できた。

④ シニア体験

シニア体験セットを装着して校内を歩く体験をした。高齢になると目が見えにくくなったり、体が動きにくくなったりすることを実感することができた。

⑤ 地域に発信する

文化祭では、体験などを通して分かったことや調べたことをステージで発表した。さらにシ



ニア体験、車いす体験、点字体験のコーナーを設け、多くの人に体験してもらうとともに、学んだことを伝えることができた。

#### (5) 5学年の実践「守りつごう 村岡」

学校や家の周りには、水田が多く広がっているが、実際に自分の家で米作りをしている家庭の児童は少ない。そこで、社会科「米作りのさかんな地域」の学習とつなげて、学習を進めることにした。

##### ① クラスをといた課題別グループ

児童から出てきた課題を次の5つに絞り、課題別グループに分け、課題追及を行った。(イネの生育・畑と田の違い・田の生き物・勝山や村岡の田の面積、村岡の米作り)

##### ② 地域の協力

JAの方を招いて米作りの話を聞き、田植えや稲刈り体験をしたりした。また市役所の方へ電話インタビューも行った。地域の方には、アンケートをとって、村岡の米作りの現状について調べた。



##### ③ 地域への発信

調査内容を取り入れた劇やパワーポイントのスライドを使って、村岡町文化祭で、村岡の米作りの現状について提案を行った。また、個人ごとで新聞にまとめて掲示した。



#### (6) 6年生の実践「村岡の未来へつなげよう」

地元のNPO団体「小原エコプロジェクト」の皆さんや福井県自然保護センターの職員の方々などのご指導の下、校区にある希少植物のミチノクフクジュソウの保全活動を行った。これは平成20年度から続いている活動であり、この活動を次の学年へ継続し、また地域の方にも発信して啓発活動も行っている。

##### ① 開花観察会(4月)

北谷町小原地区に出かけ、ミチノクフクジュソウが決められた広さの中にどれくらい咲いているかについて調査した。ここ数年咲いている花の数より少し増えていることが分かり、児童は喜んでいました。また同時に花の観察を行い、受粉をするために花卉で花の中心温度を上げている特性を知った。



##### ② 下草刈りと看板作り(7月)



山の斜面に自生するミチノクフクジュソウが日光に当たりやすくするために、下草刈りを行った。各班に一人指導者がつき、協力して大量の下草を刈ることができた。また、下草刈りの後は小原地区の旧公民館に移動して、ミチノク

フクジュソウ乱獲防止を訴える看板を製作した。その後は児童も楽しみにしていたバーベキュー大会を行った。地元でとれた豊富な野菜や川魚をみんなで協力して調理し、おいしくいただくことができた。また、川での水遊びもすることができ、ふるさとの自然と十分にふれ合った一日となった。



(7) 特別支援学級の実践「やりたい、できた、みんなでいっしょに」

学級全員でやりたいことを計画し、取り組んだ。学級園で作物を育て、その作物を用いての調理活動などを行った。

① 野菜の苗を植える、野菜の種をまく。

施設員の方に指導をいただきながら、種をまいたり、苗を植えたりして野菜を育てた。畝を作ったり、肥料をまいたりするなどしてそれぞれの役割をきちんと果たすことができた。



② 育てたものを調理する。

育てた野菜を収穫し、自立の時間を使って調理することにした。自分たちだけが食べて終わるのではなく、日頃からお世話になっている先生方にも食べてもらった。



活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）